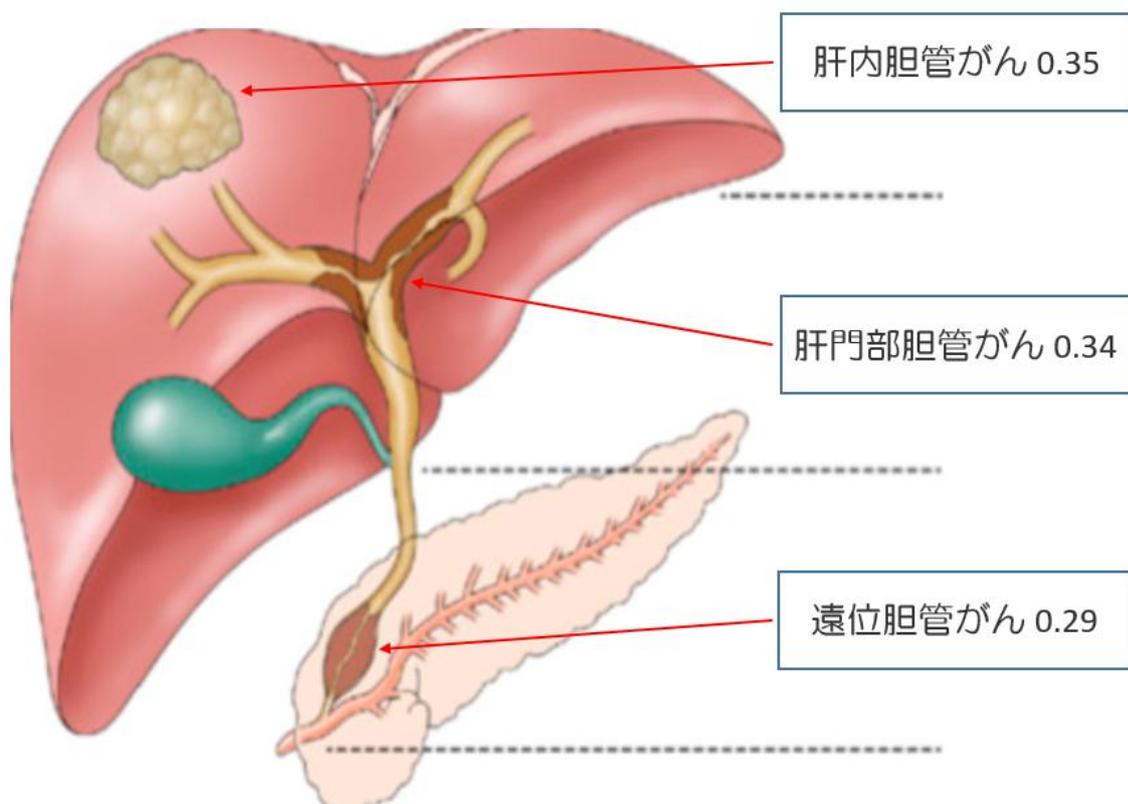


アスピリンによる胆管がんリスクの低下について

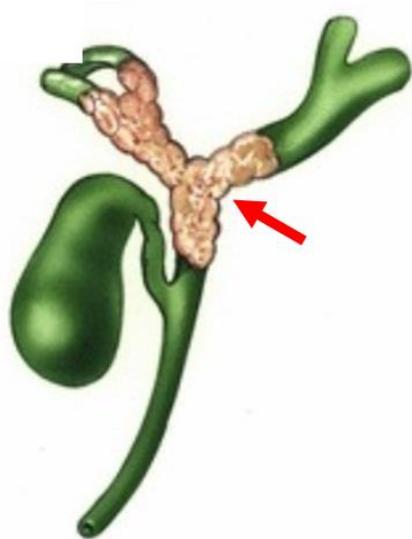
アスピリンの服用により胆管がんのリスクが有意に低下することを、米・Mayo Clinicのグループが明らかにし、研究結果が医学雑誌 *Hepatology* に掲載されました。



Mayo Clinic で治療された胆管がん患者 2,395 例（肝内胆管がん 1,169 例、肝門部胆管がん 995 例、遠位胆管がん 231 例）を解析した結果、**アスピリン**の服用は胆管がんの有意なリスク低下と関係し、補正後のオッズ比は 肝内胆管がん 0.35、肝門部胆管がん 0.34、遠位胆管がん 0.29 でありました。



胆管がんの危険因子である原発性硬化性胆管炎（PSC）では肝門部胆管がんのリスク低下、糖尿病では遠位胆管がんのリスク低下と強い関係を示しました。



PSC 非合併の肝硬変では肝内胆管がんおよび肝門部胆管がんのリスク低下と関係していました。

アスピリンの服用により、
胆管がんのリスクが有意に低下する結果
となりました。

